令和６年度研究推進計画

廿日市市立廿日市中学校

研究主題

思考力・表現力を高める学習指導の工夫
～ユニバーサルデザインの考え方を生かしたICTの活用を通して～

１　主題設定の理由

令和５年度、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、ユニバーサルデザイン（以下「UD」という。）の考え方を生かし、ICTを活用した学習指導の工夫を行い、生徒の「思考力・表現力」を高めることに重点をおいた研究を行った。その結果、UDの視点を取り入れ、ICTを活用した学習指導は、生徒の「思考力・表現力」の向上に有効であることが分かった。

一方、UDの考え方に基づく支援を必要とする生徒群（以下「UD群」という。）の困り感があることや、生徒の自己肯定感や粘り強さに課題があることも分かった。

これらの課題を克服するために、実際の授業づくりにおいては、生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行う「指導の個別化」や、生徒一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、生徒自身が自らの学習が最適になるよう調整する「学習の個性化」といった「個別最適な学び」を充実する。

さらに、ペアやグループ、学級全体でお互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを組み合わせて、よりよい学びに発展させるなどの「協働的な学び」も充実し、その成果を再び「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実していく学習指導の工夫・改善が大切であると考える。

そこで、今年度も昨年度と同様に、UDの考え方を生かしながら、学習指導の工夫・改善に大変有効であったICTを最大限に活用して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図ることができれば、生徒の思考力・表現力をさらに高めることができるはないかと考え、本主題を設定した。

２　研究仮説

UDの考え方を生かしながら、ICTを活用した学習指導を工夫して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実すれば、生徒の思考力・表現力をさらに高まるだろう。

３　仮説検証の視点

本校生徒に身に付けさせたい資質・能力のうち、発達段階に応じた「思考力・表現力」の向上について検証する。

	思考力・表現力	主体性	自己有用感
１年	情報を整理し、自分の考えや意見を表現することができる。	課題に対して、自分の考えをもち、取り組もうとしている。	友達の考えや表現を尊重し、受け入れていこうとする態度を養うことで、ともに学びあい自分に自信をもつことができる。
２年	情報を論理的に考え、自分の考えや意見を分かりやすくまとめ、表現することができる。	課題に対して、自分の考えをもち、自ら進んで取り組もうとしている。	友達の考えや表現を尊重し、受け入れていこうとする態度を大切にともに学びあうことができる。
３年	課題解決のために適切な方法を導き、適切な方法で相手に伝わるように表現することができる。	課題に対して、自分の考えをもち、よりよい方法を選択して、自ら進んで取り組もうとしている。	友達の考えや表現を尊重し、受け入れていこうとする態度を大切にし、ともに自律的・自主的に生活するために学びあうことができる。

4　仮説検証の方法

生徒の「思考力・表現力」の育成について、次のとおり、取組と成果から検証する。

	検証の視点	検証方法
ＩＣＴ活用	○　ICT の活用は有効であったか。 ・　調べる場面 ・　意見交換する場面 ・　考えをまとめ・発表する場面 ・　勉強の役立ち感	・生徒アンケート （全体及び UD 群）
思考力・表現力の育成	**＜個別最適な学び＞** ○　生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。 **＜協働的な学び＞** ○　授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいるか。	・全国学力・学習状況調査 ・生徒アンケート （全体及び UD 群）
	＜個別最適な学び＞ ○　生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じ、指導方法･教材や学習時間等の柔軟な提供･設定を行っているか。（指導の個別化） **＜協働的な学び＞** ○　生徒が自分や他者の考えを組み合わせて、よりよい学びが生み出せる場面を設定するなど、学習活動を工夫しているか。	・教職員アンケート
	○　思考力・表現力は高まったか。 ・　思考力・表現力向上の客観的評価	・全国学力・学習状況調査 ・復習テスト （全体及び UD 群）

5　研究の方向性

項目	取組内容
学びの環境づくり	①自他を尊重できる学級集団づくり（グループアプローチ等） ②つながりを大切にする縦割り集団活動 ③すべての生徒の居場所づくりと学習機会の保障 ④保護者・地域への情報発信
授業づくり	①「廿日市中学校授業モデル」に基づく授業の展開　別紙Ⅰ ②校内授業研究を通した授業改善 ・　UD の視点（「焦点化」「視覚化」「共有化」） ・　タブレット端末等、ICT 活用の積極的な活用 ・　「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実

6　研究の基本的な考え方

(1)　「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通じて、学習指導要領前文に記載されている「一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう」に育成していくことが求められている。

中央教育審議会答申（平成 28 年）において、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の具体的な内容については、以下の三つの視点に立った授業改善を行うことが示されている。

① 学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。
② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。
③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

(2) 各教科における配慮事項について

学習指導要領には、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うよう示されており、各教科の配慮事項の抜粋は次のとおりである。

これらの配慮事項はこれまでも充実が図られてきたものであるが、各教科の特質を生かした学習活動の質をさらに改善・充実させていくための視点として、各教科等において参考にする。

教科等	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた配慮事項
国語	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。
社会	分野の特質に応じた見方・考え方を働かせ、社会的事象の意味や意義などを考察し、概念などに関する知識を獲得したり、社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動の充実を図ること。また、知識に偏り過ぎた指導にならないようにするため、基本的な事柄を厳選して指導内容を構成するとともに、各分野において、第 2 の内容の範囲や程度に十分配慮しつつ事柄を再構成するなどの工夫をして、基本的な内容が確実に身に付くよう指導すること。
数学	数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学の問題を見いだし、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図ること。
理科	理科の学習過程の特質を踏まえ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどの科学的に探究する学習活動の充実を図ること。
音楽	音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切にした学習の充実を図ること。
美術	造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図ること。
保健体育	体育や保健の見方・考え方を働かせながら、運動や健康についての自他の課題を発見し、その合理的な解決のための活動の充実を図ること。また、運動の楽しさや喜びを味わったり、健康の大切さを実感したりすることができるよう留意すること。
技術・家庭	生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、知識を相互に関連付けてより深く理解するとともに、生活や社会の中から問題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習の充実を図ること。
外国語（英語）	具体的な課題等を設定し、生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現、文法の知識を五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。
総合的な学習の時間	生徒や学校、地域の実態等に応じて、生徒が探究的な見方・考え方を働かせ、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心等に基づく学習を行うなど創意工夫を生かした教育活動の充実を図ること。
特別活動	よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己実現に資するよう、生徒が集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組む中で、互いのよさや個性、多様な考えを認め合い、等しく合意形成に関わり役割を担うようにすることを重視すること。

(3) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」について

中央教育審議会答申（令和３年）では、**目指すべき新しい時代の学校教育の姿**として、**「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」**が提言された。

生徒の資質・能力を育成するにあたっては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」という観点から学習活動の充実の方向性を改めて捉え直し、これまで培われてきた工夫とともに、ICT の新たな可能性を指導に生かすことで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが重要である。

ア　「個別最適な学び」について

生徒に身に付けさせたい資質・能力は、家庭の経済事情など、生徒を取り巻く環境で差が生まれやすい能力でもある。「個別最適な学び」の充実を図り、学びの動機付けや効果的な取組を展開していくことによって、個々の家庭の経済事情等に左右されることなく、生徒一人一人に必要な力を育んでいくことができる。

「個別最適な学び」は、「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理されており、生徒が自己調整しながら学習を進めていくことができるよう指導することが重要である。

①　「指導の個別化」とは

生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じて、教員が指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことである。

（例）

- 課題を早く終わらせた生徒が、教員が用意した発展的な課題に取り組む学習
- 生徒が自分のスキルに合わせて、学習者用デジタル教科書を活用して学ぶ学習
- ワークシートについて、生徒がペーパーと ICT を選択して学ぶことができる学習
- ある単元において教員の作成した学習計画表に基づいて、生徒が自分のペースで自分のやりたいところから学びを進めていく学習（単元内自由進度学習）　など

一定の目標を全ての生徒が達成することを目指して、個々の生徒に応じて異なる方法等で学習を進め、生徒自身が自分の特徴や自分に合った学習方法などを調整しながら、本校の課題でもある**「粘り強く取り組む態度」**を育成することも含まれる。

②　「学習の個性化」とは

生徒一人一人の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することである。

（例）

- 総合的な学習の時間において、生徒一人一人が自分の興味・関心に基づいて学習テーマを選び、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う学習
  （「生き方学習」・「ふるさと学習」）
- 各教科等で、生徒一人一人が興味・関心に合ったテーマで調査し、まとめる学習　など

「学習の個性化」には、探究的に学んでいく中で、生徒自身が自らどのような方向性で学習を進めていったらよいかを考えることなども含まれる。

「個別最適な学び」の充実を図るにあたっては、生徒が ICT を日常的に活用することにより、自ら見通しを立てたり、学習の状況を把握し、新たな学習方法を見いだしたり、自ら学び直しや発展的な学習を行いやすくなったりする等の効果が生まれることが期待されている。

イ　「協働的な学び」について

集団の中で個が埋没してしまうことがないよう、生徒一人一人のよい点や可能性を生かし、生徒同士、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働し、異なる考え方を組み合わせて、よりよい学びを生み出すことである。

（例）

・一斉授業における集団の中での個人に着目した学習活動
・内容を他者に説明するなど、生徒同士の学び合いができる学習活動
・多様な他者と協働して、問題の発見や解決に挑む学習活動　など

「協働的な学び」を発展させるには、ICT を活用し、生徒一人一人が自分のペースを大事にしながら共同で作成・編集等を行う活動や、多様な意見を共有しつつ合意形成を図るなどの学習活動の工夫が考えられる。

「協働的な学び」の効果を高めるためには、学級経営を充実し、生徒同士が違いを認めて協力し合える学級づくりを進めることが必要である。本校が取り組んでいるグループアプローチなど、学級活動で行われる合意形成の活動は、不登校の未然防止だけでなく、他の教科等での学習の質の向上にも有効である。

また、「協働的な学び」は、同一学年・学級の生徒同士の学び合いだけでなく、異学年間の学びや地域の方々や多様な専門家との協働なども含むものである。学校行事や生徒会活動など、学校における様々な活動の中で、異学年間の交流（縦つながり）の機会を充実することで、生徒自らがこれまでの成長を振り返り、将来への展望（キャリア）を培うとともに、本校の課題でもある**「自己肯定感」**を育むことができると考える。

7　研修計画

本年度の研修計画については、別紙２に示す。

8　研修構想図

本年度の研修構想図については、別紙３に示す。